

# グローバル教養海外実践(リトアニア)レポート

経済学部国際経済学科 2 回生 日下樹

## 1.設定した調査課題を基にしたリトアニアでの調査

私は今回のリトアニア研修において、リトアニア人の「娯楽」を調査課題とし、調査してきた。まず初めに、私がリトアニアに行って初めて知った情報はリトアニアには日本と同様にはっきりとした四季があるということである。その情報から私は、リトアニアには季節に応じたリトアニアならではの娯楽があるのではないかと考えた。そして調査を行った結果、いくつかの季節に応じたリトアニアならではの娯楽を知ることができた。中でも私が特に紹介したいのは、8月下旬～10月上旬にかけて行われる「きのこ狩り」である。日本で娯楽として森に入り、きのこ狩りをするということはあまり聞かないが、数多くの自然が残り、都市部からそれほど離れなくとも多くの森林や丘のあるリトアニアでは広く行われている娯楽の一つである。また、リトアニアの人たちは自らきのこ狩りスポットを見つけ、休日には早朝から森に入り、きのこ狩りを楽しむそうだ。私のホームステイ先のご主人であるポヴィラスさんによると、きのこ狩りは娯楽としてだけでなく、お金を稼ぐ目的で行う人も多いそうで、採集したきのこをドイツのマーケットや、国内のマーケットで売ることによって稼ぎにする人もいて、都市部から少し離れた森に面した道路のわきで採集したきのこを売っている人たちをよく見かけるそうである。また、採集したきのこは売ることによって稼ぎにするだけでなく、様々な調理法や保存法によって調理・保存され多くの食べ物に活用されているとのことである。

次いで私が紹介したいのは、もしかすると娯楽とは言えないかもしれないが、「バスケットボール」である。バスケットボールは日本人にとっても馴染みのある競技ではあるが、私がリトアニアに行って感じたのはリトアニアの人たちがバスケットボールに対してかなり熱狂的であるということである。今回の研修の期間はちょうどバスケットボールのW杯の期間と被っていたこともあって、私はその熱狂に触れることができた。バスケットボールはリトアニアの国技であることから、国内のバスケットボールリーグや、代表チームの試合は生中継され、リトアニアの人たちは自宅のテレビや飲食店で試合を観戦するそうだ。また、ホームステイ先のご主人であるポヴィラスさんによると、バスケットボールのリトアニア代表が試合に勝った時には家や車からリトアニア国旗が掲げられている光景をよく目にするのだそうだ。そのような中で私がリトアニアの人たちのバスケットボールに対する熱の高さを最も象徴していると感じたのは、街中や住宅街の中にあるバスケットゴールやバスケットコートの数之多さである。日本では大きな公園の一角にバスケットコートが併設してあるということはたまに目にするが、リトアニアでは住宅街の一角にバスケットコートがあり、どこにでもあるといっても過言ではないほど、多くのバスケットゴ

ールやバスケットコートが設置されていた。このような二つの例からリトアニアの人たちの娯楽には「きのこ狩り」という日本ではあまり聞かないような娯楽や、スポーツ観戦という日本文化に浸透した娯楽まで様々あることが分かった。今回の機会を生かして異文化を深く理解する契機にしたいと思う。

## 2. リトアニアでの学びや気付き

私がリトアニアに行って最も衝撃を受けたことは、自分の英語力、言語力がかなり低いものだという点である。現地で大学や高校を訪問したのだが、多くの生徒が英語・リトアニア語はもちろんのこと、フランス語やドイツ語、ロシア語などの第3言語を話すことができ、中で最も驚いたのは高校一年生の子で7か国語をマスターし、話すことができる子がいると聞いたことである。訪問先の大学に勤められておられる准教授の橋本さんによると、第3言語を話すことができるのは現地の人にとってはあまり驚くようなことではなく、むしろ当たり前のことであるそうだ。日本は周りを海に囲まれており、国内で生活するのに日本語さえ流暢に話すことができればあまり不自由することなく生活することができる。その一方でリトアニアは多くの国々と国境を接しており、ソ連やナチスドイツ、ポーランドに領土を占領された歴史もあって、様々な国の人々や文化が混ざったことで、リトアニア語のみを使って不自由することなく生活していくことが難しかったのだと考えられる。実際にテレビ放送はリトアニア語や英語で行われており、街中の看板もリトアニア語や英語、ロシア語で書かれていた。このような歴史的、文化的背景はあるにしろ、日本語や英語を扱うことができたとしても、海外で成功することは難しいのだと実感させられた。

また、私がリトアニアで気づいたことは、やはり日本という国を知ってもらう上でアニメの存在は欠かすことのできないものであるということだ。今回の研修で訪問させていただいたヴィリニウス大学には日本学を専攻する学科があり、そこで学んでいる学生さんたちと交流させていただく機会があったのだが、なぜ日本について学ぼうと思ったのか、という問いに対して多くの方がアニメを見て日本という国に興味を持ったから、という答えが返ってきた。私はアニメに詳しいほうではないのだが、学生さんたちはアニメに対してかなりの知識量があり、驚かされた。今回の研修でアニメの話は大きなコミュニケーションツールになると実感したので、海外の方々にとっての日本の象徴であるアニメを私もより深めていこうと思った。また、アニメだけではなく日本のゲームの影響も少なからずあると感じた。今回の研修で現地の高校を訪問する機会があり、そこで日本について少し授業をするという機会があった。その授業の中で、ある男子生徒が日本の「ヤクザ」について教えてほしいと質問をしてきた。その男子生徒は日本のゲームの中でヤクザの存在を知ったそうで、ゲームの影響はその国の文化を知るうえで大きな役割を果たしているのだと感じた。

次いで、私は今回の研修でリトアニアの歴史について深く学ぶことができた。私はこの

研修に参加する前まではリトアニアといえば杉原千畝さんが領事として着任されていたというぐらいの知識量しかなかったが、今回の研修ではリトアニアがどのような経緯でどの国に占領され、その占領下でどのようなことが行われ、いつ独立したのかなどを深く学ぶことができた。また、世界大戦よりはるか昔のリトアニアの国内は誰が統治していたのかなど、多くのことを学ぶことができ、リトアニアの歴史について研修参加前と後では知識量や理解度が全く違っているように感じられる。そのような点においても今回リトアニアに行けたことは自分にとって大きな財産になり、非常に有意義なものとなった。